

2024年4月30日 発行

環境経営レポート

2023年2月 ～ 2024年1月



株式会社ヤマゲン

Story 1



昔々、南紀古座に山本源七という人がおりました。源七さんは、山から木を切り出し炭を焼いて生計を立てていました。やがて山本一族は、木を伐採し植林し間伐をしながら森林を育て、南紀では有力な山林業者として認められるようになりました。

Story 2



時を経て、山から伐採した木をふもとの製材所で製材し、林材業へと発展してまいりました。需要に支えられて、関西地区及び関東地区にも進出し、「古座山源の丈角」として大きな評価を得、現在のヤマゲンの原点となる山源興業を立ち上げたのが五十年ほど前になります。東京木場にも製材所を備え、木材保存事業として「防虫防腐加工」にも取組んでまいりました。その間、山林伐採会社の山源旭企業も設立し、又、木材資源の有効利用を図る観点から大阪堺にて日本ノボパン工業を設立し、パーティクルボードの生産を始めました。

Story 3



昔、古座山源の山林で大自然の恵みを受けて大きく育った檜、杉、松が伐採され製材されて、住宅の柱材、工事現場の土台柱として使われてきました。今、その木材が使命を終え、解体されてヤマゲンのリサイクルセンターに運ばれてきます。この貴重な資源は、何十年も経て、又、大切な資源として生きかえります。源七さんの木が、源七さんの子孫によって、再度命を吹き込まれます。燃やされることなく、パーティクルボードの原料として再生されます。パーティクルボードは取り敢えずの使命を終えると、又、パーティクルボードの原料として蘇ります。

Story 4



地球環境の保護が叫ばれる今日、多大な被害をもたらしかねない地球温暖化が大きな問題となっています。当社では、温暖化の大きな原因とされる二酸化炭素の吸収源である森林の整備（山林管理事業）を従来と同様に継続する一方、炭素の固定化という重要な役割を果たす廃木材のマテリアルリサイクル（リサイクル事業）を積極的に進めています。山林の保全と木材の再利用を推進する企業として、地球温暖化の問題解決に向けてこれからもSDGsに貢献してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

当社は持続可能な開発目標の達成に取り組んでいます。

山林管理事業



リサイクル事業



木材資源の循環利用、木くずリサイクル、CO2削減

集めた木くずをグループ会社「日本ノボパン工業(株)」でパーティクルボード「ノボパン」に再生することにより焼却する場合のCO₂排出量を比較すると、「ノボパン」1トン当たり1.16トンのCO₂削減効果があると考えられます。炭素が固定されることにより地球温暖化抑制への貢献を目指します。

参照URL:

[CO2削減効果 | 日本ノボパン工業 | パーティクルボードは廃木材・未利用木材を有効に活用しています \(novopan.co.jp\)](https://novopan.co.jp)

不動産賃貸事業



豊かな街づくり

持続可能な社会や環境、安心安全に配慮した街づくり、新たな世界を生み出す革新的な街づくりを目指します。

環境経営

豊かな生活環境向上の実現のために、資源の最大限の有効活用という企業理念のもとに積極的継続的な事業活動を通じて、SDGsに取り組んでいます。

1、事業所の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

事業者名、代表者名、設立年月日、資本金、事業年度、事業所在地

2、事業所の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

◆EA21認証・登録の対象組織

◆その他の認証・認定

◆事業計画の概要

◆事業の規模

◆産業・一般廃棄物処理実績

◆つくば工場の許可及び施設の状況等

◆古座山林部の活動紹介

3、実施組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

4、つくば工場の処理工程図・・・・・・・・・・ P 1 0

5、環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 1

基本理念、環境保全への活動指針

6、環境目標と実績の評価・・・・・・・・・・ P 1 2

7、環境活動計画の取組結果とその評価・・・・ P 1 8

8、環境目標及び環境活動計画・・・・・・・・ P 1 9

9、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

の結果並びに違反、訴訟等の有無・・・・・・・・ P 2 1

1 0、代表者による全体評価と見直しの結果・・・・ P 2 2

(注1) 古座山林部は小規模な事業活動で環境は負荷著しく低く、よって環境目標及び環境活動計画等は本社に含める

(注2) 大阪営業部はすべての業務を本社でおこない、事務所は賃貸先である子会社の事務所に所在し、従業員（1名）

も子会社のものが兼務し、電力・水道・消耗品等から発生する環境負荷の実態はない

※大阪営業部は令和6年3月31日廃止とする。

事業者名 株式会社ヤマゲン

代表者名 代表取締役社長 山本 拓

設立年月日 昭和26（1951）年8月8日

資本金 80,000千円

事業年度 2月～1月

事業所在地 本社

東京都江東区新木場1丁目17番4号

TEL 03-3521-6455 FAX 03-3521-6454

大阪営業部

大阪府堺市美原区木材通4丁目7番13号

TEL 072-361-5583 FAX 072-361-5670

古座山林部

和歌山県東牟婁郡串本町西向351

TEL 0735-72-2163 FAX 0735-72-2163

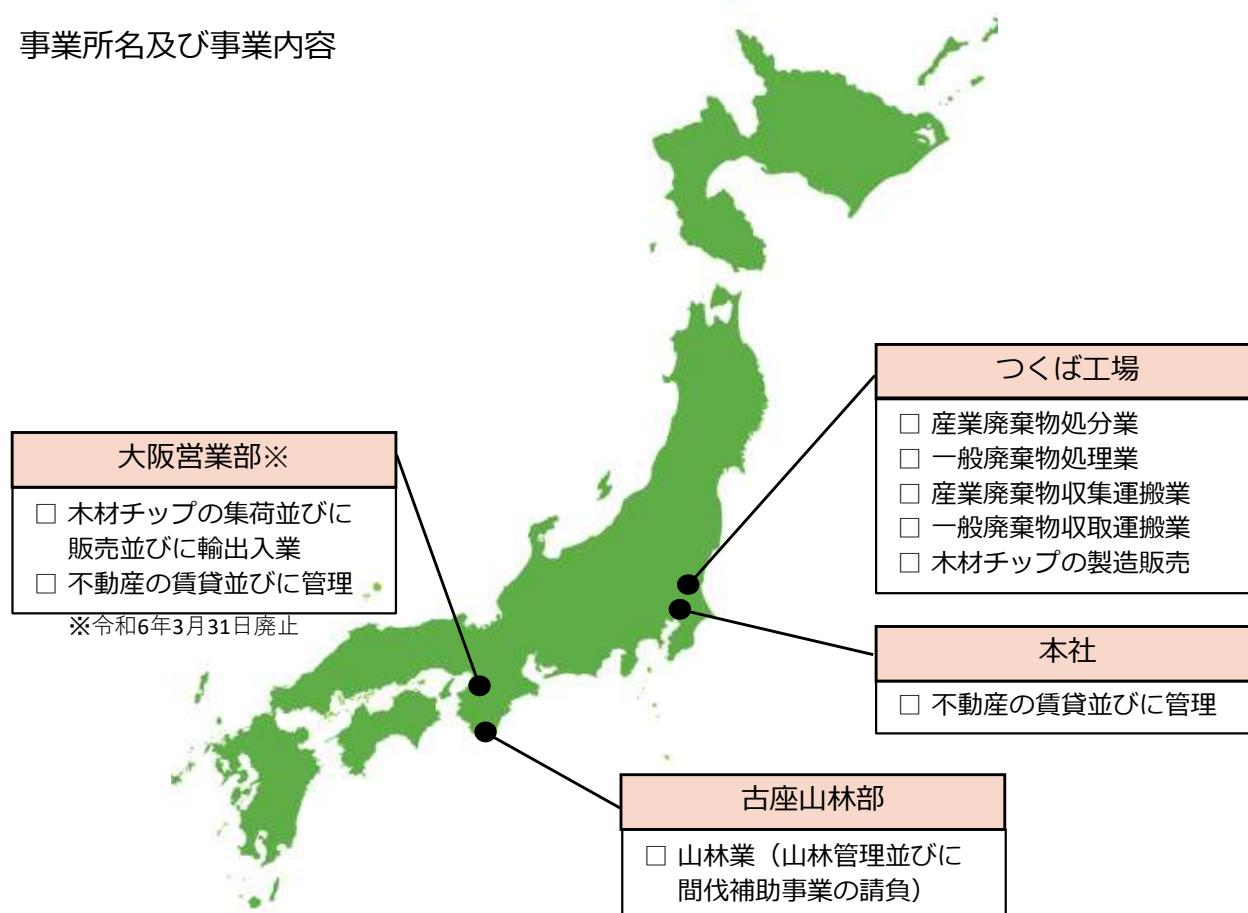
つくば工場（つくばウッドリサイクルセンター）

茨城県つくば市大字片田字浦割東499

TEL 029-839-2072 FAX 029-839-2172



事業所名及び事業内容



◆ EA21認証・登録の対象組織

株式会社ヤマゲン

EA21認証・登録日 2011年11月11日

認証・登録番号 0007721



・本社

・大阪営業部

・古座山林部

環境管理責任者 木下 武幸

担当者 小田島 昌志 TEL03-3521-6455

・つくば工場

環境管理責任者 高崎 雅

担当者 山口 晃 TEL029-839-2072

◆ その他の認証・認定



森林認証 (SGEC)

認証日: 2006年6月28日

JAFTA-009



優良産廃処理業認定制度 (茨城県)

優良認定日: 2013年8月28日



2008年6月

茨城県リサイクル優良事業所認定

(木質廃材のマテリアルリサイクルによる循環型社会の推進に貢献)

◆ 事業計画の概要

東京都内及び大阪府内等に所有する不動産の賃貸をおこなう一方で、つくば工場では、廃木材を受け入れて破碎・異物除去し木質チップ化することにより、パーティクルボード用原料として供給する。

◆ 事業の規模

指標	単位	本社	古座山林部	つくば工場
売上高	千円	323,318	3,018	403,787
従業員	人	12.0	3.0	※1 15.0
床面積	m ²	7,742	55	3,998
敷地面積	m ²	14,091	※2 94	13,223

※1 パートタイマー (1人) 及び派遣労働者 (3人) を含む

※2 所有山林面積 約1,590ha

～ つくば工場の開設から現在 ～

1998年10月 つくば工場を開設。

1999年 6月 産業廃棄物処分業の許可を取得（茨城県）。

2000年 5月 産業廃棄物収集運搬業の許可を取得（茨城県）。

2003年 9月 一般廃棄物処理施設許可を取得（茨城県）。

2003年11月 一般廃棄物処理業の許可を取得（つくば市）。

2008年 6月 茨城県リサイクル優良事業所に認定。

2011年11月 エコアクション21の認証・登録

2013年 8月 優良認定産業廃棄物処理業者の許可を取得（茨城県）。

2016年 5月 一般廃棄物収集運搬業の許可を再取得（つくば市）

2018年 7月 日本ノボパン工業が取得したSGEC-CoC認証（物流・加工）の一環として、パーティクルボード用原料のチップ化として認定。

2019年 6月 公益社団法人全国産業資源循環連合会より地方優良事業所表彰を受ける。

2021年11月産業廃棄物収集運搬業の許可を取得（千葉県）

◆つくば工場の許認可及び施設の状況等

施設の状況

- | | |
|---------------------------|-----|
| ・ 破砕機 | 1台 |
| （破砕処理能力 20 t/時間（160 t/日）） | |
| ・ 旋回スクリーン | 2台 |
| ・ チップクリーナー | 3台 |
| ・ 磁選機 | 5台 |
| ・ 金属検出機 | 12台 |
| ・ 風選装置 | 1台 |
| ・ トラックスケール | 1台 |
| ・ 油圧ショベル | 3台 |
| ・ ホイールローダー | 3台 |
| ・ フォークリフト | 3台 |
| ・ 乗用型ハイスーパー | 1台 |
| ・ 営業車 | 3台 |
| （リース車含む） | |
| ・ 脱着装置付コンテナ車 | 1台 |
| ・ 小型トラック | 1台 |

～ 廃材が幸せに蘇る ～

資源の最大限の有効活用という企業理念の基に、関連会社の日本ノボパン工業株式会社と連携して木質系リサイクル事業に積極的に取り組み、一層の環境負荷低減と資源循環型社会形成に寄与しています。



◆産業・一般廃棄物処理実績

事業年度 (種類)	中間処理量	収集運搬量
2023年 (木くず)	産業廃棄物 36,879t	71t
	一般廃棄物 1,516t	0t

許認可

茨城県（優良認定）

- ・ 産業廃棄物処分業（最終処分を除く）
事業範囲：破砕・木くず
許可番号：00821061848
許可年月日：令和5（2023）年8月9日
許可期限：令和12（2030）年6月6日
- ・ 産業廃棄物収集運搬業（積替保管を除く）
事業範囲：木くず
許可番号：00801061848
許可年月日：令和6（2024）年6月25日
許可期限：令和13（2031）年5月24日

つくば市

- ・ 一般廃棄物処理業（最終処分を除く）
事業範囲：破砕・木くず
許可番号：11087
許可年月日：令和5（2023）年4月1日
許可期限：令和7（2025）年3月31日
- ・ 一般廃棄物収集運搬業（積替保管を除く）
事業範囲：木くず
許可番号：01087
許可年月日：令和6（2024）年4月1日
許可期限：令和8（2026）年3月31日

千葉県

- ・ 産業廃棄物収集運搬業（積替保管を除く）
事業範囲：木くず
許可番号：01200061848
許可年月日：令和3（2021）年11月16日
許可期限：令和8（2026）年11月16日

【古座山林部の活動紹介】

当社の原点である山林事業・・・。

以前は木材を伐採・植付け・下刈り・除伐・枝打ち・間伐という作業を通じて山林を育て、その木材を製材し採算事業として十分に成り立っていましたが、今では事業としての収益性を確保する事が難しくなっています。

現在当社では伐採・製材の事業は行っていませんが、間伐を継続し森林をしっかりと整備する事を通じて、国土の保全・水源のかん養・自然環境の保全・保健休養の場の提供・林産物の提供等々という重要な役割を果たしています。

～作業風景～

◆間伐作業

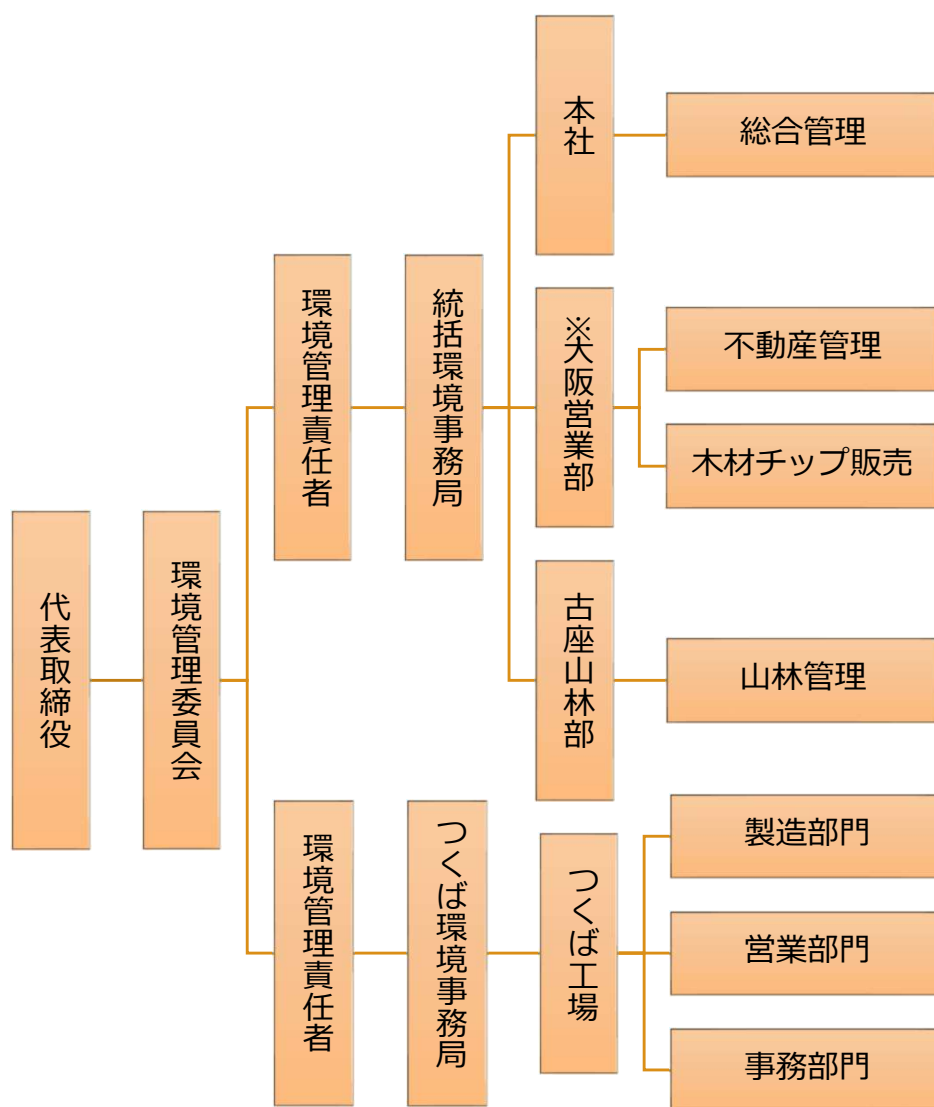


◆枝払作業



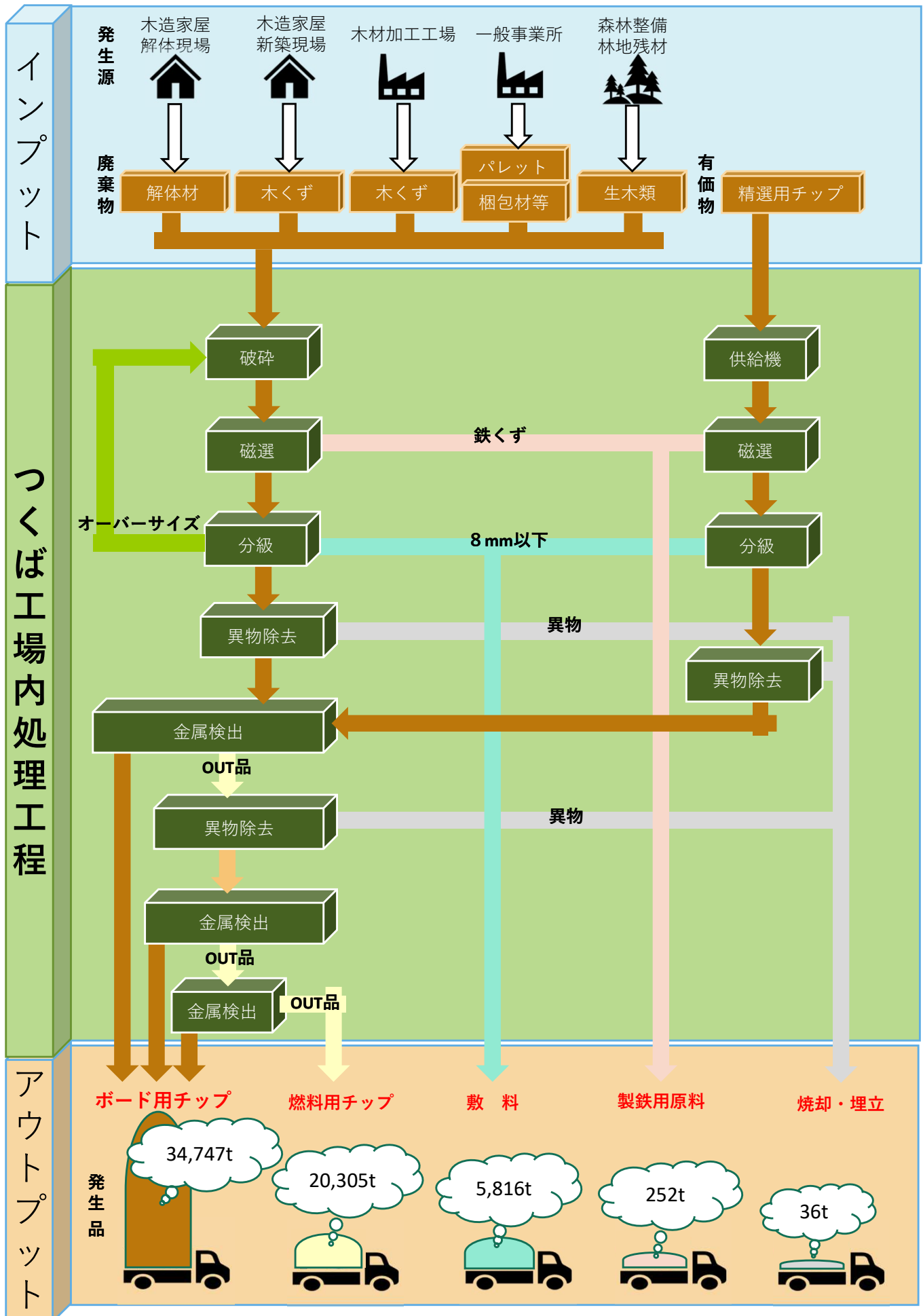
◆人工林間伐完成





※令和6年3月31日廃止

代表取締役	☐ 環境経営方針の策定 ☐ 環境管理責任者の指名 ☐ 経営におけるチャンスと課題の明確化 ☐ 取組状況の評価及び見直し ☐ 環境活動レポートの承認 ☐ 必要な資源の投入
環境管理委員会 ・ 取締役	☐ 環境活動の実施状況の監査 ☐ 環境活動の取り組みの評価 ☐ 環境マネジメントの助言、指導
環境管理責任者 ・ 取締役 ・ 取締役つくば工場長	☐ 環境目標・環境活動計画書の確認 ☐ 環境活動の結果を代表者へ報告 ☐ 環境活動レポートの確認
環境事務局	☐ 環境活動の実績集計 ☐ 環境活動システムの構築・運用 ☐ EA21関連文書の作成
全従業員	☐ 環境活動への取り組み



基本理念

当社は、資源の最大限の有効活用という企業理念のもとに、木質系リサイクル事業に取り組み一層の環境負荷低減と資源循環型社会形成に貢献します。地球温暖化の保護の立場からCO₂の吸収源である森林の整備を継続する一方、炭素の固定化という重要な役割を果たす廃木材のマテリアルリサイクルを積極的に推進しています。事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的、積極的に環境保護活動に取り組んでいます。

環境保全への活動指針

当社基本理念のもとに、所有森林の整備（間伐等）を進める一方、廃木材からチップを製造して関係会社の日本ノボパン工業へパーティクルボード用原料として供給する等、木質系リサイクル事業に積極的に取り組んでいます。また、かつてのメイン事業であった製材工場等の跡地の有効利用として、不動産の賃貸及び管理も事業の一環としています。このような事業活動のなかで、「環境保全に配慮して行動する」ことを経営課題として、次の活動指針を定めています。

1、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

- ①廃棄物の減量、再生利用（リサイクル）への貢献
- ②電力、自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ③収集運搬車、重機の燃料消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ④水資源の有効利用
- ⑤コピー用紙の使用量削減
- ⑥グリーン購入の推進及び廃木材の再資源化と供給による貢献
- ⑦化学物質の使用量の削減及び適正な管理
- ⑧環境活動への貢献
- ⑨3S活動、無事故無違反

2、環境教育、訓練の実施により、全従業員の環境保全への知識、認識の向上を図ります。

3、事業活動において適用される環境関連法規制に遵守します。

4、地域社会とのコミュニケーションを図り、環境保全奉仕活動における社会貢献と、環境循環型社会への啓蒙活動を推進します。

5、環境方針の公開等、必要な情報の開示に努めます。

制定日 2011年 4月20日

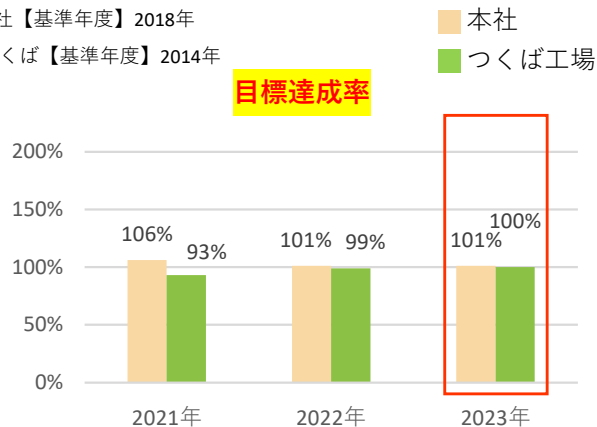
株式会社ヤマゲン

代表取締役 山本 拓

●二酸化炭素排出量の削減

【電力使用量】

本社【基準年度】2018年
つくば【基準年度】2014年



本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kwh	18,412	19,179	19,171
実績値	kg-co2	8,217	8,558	8,542
目標値	kg-co2	8,746	8,658	8,610
実績-目標	kg-co2	▲529	▲100	▲68

本社

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

前年に引き続き達成となった。夏場や冬場のエアコンは環境省が推奨する適正温度に設定をしている。またエアコンの温度設定を高めにし扇風機と併せて使用することによりエアコン効率を高め電力削減に努める。今後も同様の対応とする。

つくば工場

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

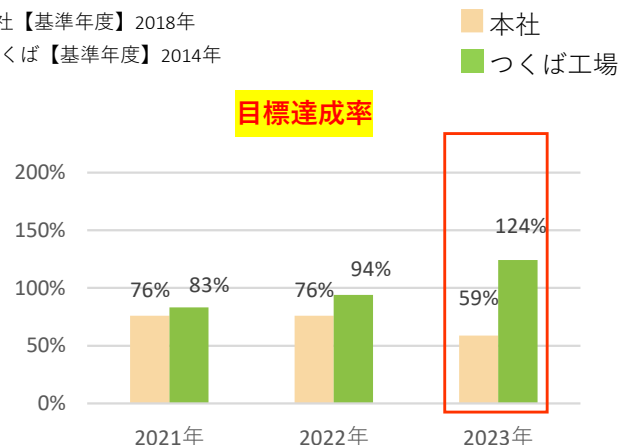
前年に引き続き目標達成をすることが出来た。前年同様に工場稼働設備に電力負荷が掛かった場合、デマンド警告ブザーによる注意喚起が容易に行えることにより効率よく作業を行うことが出来た。次年度の対応は引き続き同様の対応とする。

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kwh	901,039	898,443	989,703
実績値	kg-co2	442,410	441,136	485,944
	kg-co2/t	13.011	12.073	11.994
目標値	kg-co2/t	12.153	12.026	12.026
実績-目標	kg-co2/t	858	47	32

kg-co2/t：処理量の原単位

【ガソリン使用量】

本社【基準年度】2018年
つくば【基準年度】2014年



本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	L	2,983	2,941	3,828
実績値	kg-co2	6,920	6,930	8,881
目標値	kg-co2	5,297	5,297	5,297
実績-目標	kg-co2	1,624	1,634	3,584

本社

評価：×（89%以下）

【活動内容と次年度の取組】

前年と比較すると、移動が増えた事により使用量が増えた。活動が増えることによって車の使用回数も増している為、アイドリングストップやエアコンの使用を極力抑えながらの走行を推進する。

つくば工場

評価：○（95%以下）

【活動内容と次年度の取組】

目標達成する事ができた。ハイブリッド車の積極的な利用を行い、効果が非常に大きかった。

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	L	1,796	1,520	1,059
実績値	kg-co2	4,170	3,529	2,459
	kg-co2/t	0.099	0.087	0.067
目標値	kg-co2/t	0.083	0.083	0.083
実績-目標	kg-co2/t	0.016	0.004	▲0.016

【軽油使用量】

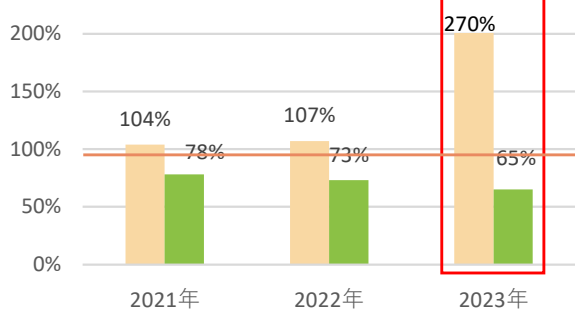
本社【基準年度】2018年

つくば【基準年度】2014年

■本社

■つくば工場

目標達成率



本社

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

6月に古座の社有車の入れ替えがあった為、軽油使用が無くなり、大幅減となった。

つくば工場

評価：×（89%以下）

【活動内容と次年度の取組】

重機のアイドリングストップやエアコンの過大使用を抑える等の省エネ運転の取り組みを行うが目標達成とはならなかった。

本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	L	782	758	257
実績値	kg-co2	2,048	1,985	787
目標値	kg-co2	2,158	2,140	2,124
実績-目標	kg-co2	▲90	▲155	▲1,337

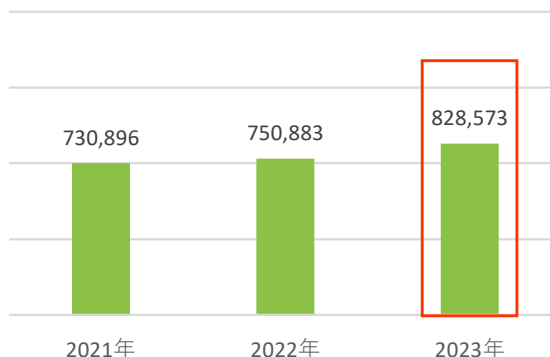
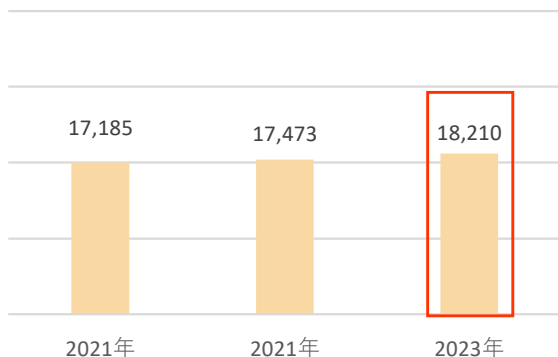
つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	L	108,338	116,684	129,621
実績値	kg-co2	284,316	306,218	340,170
	kg-co2/t	6.200	6,646	7,495
目標値	kg-co2/t	4.881	4,881	4,881
実績-目標	kg-co2/t	1.319	1,765	2,622

kg-co2/t：調整入荷量の原単位

【二酸化炭素総排出量】

■本社

■つくば工場



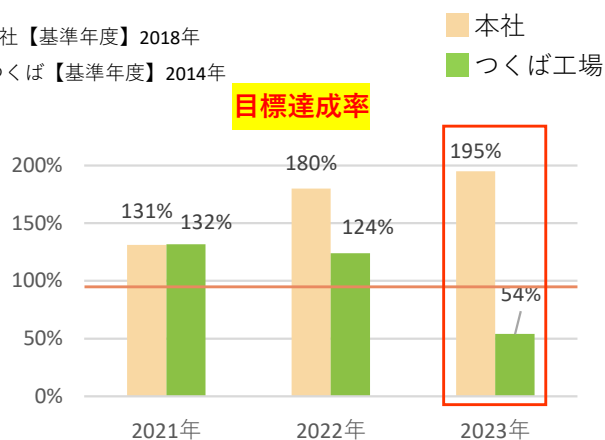
本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kg-co2	17,185	17,473	18,210

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kg-co2	730,896	750,883	828,573

【水使用量】

本社【基準年度】2018年

つくば【基準年度】2014年



本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	m ³	748	539	488
目標値	m ³	983	973	954
実績-目標	m ³	▲235	▲434	▲466

本社

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

前年から大幅に改善され達成となった。帰社時の蛇口チェックやこまめな止水を行う。次年度も同様の対応とする。

つくば工場

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

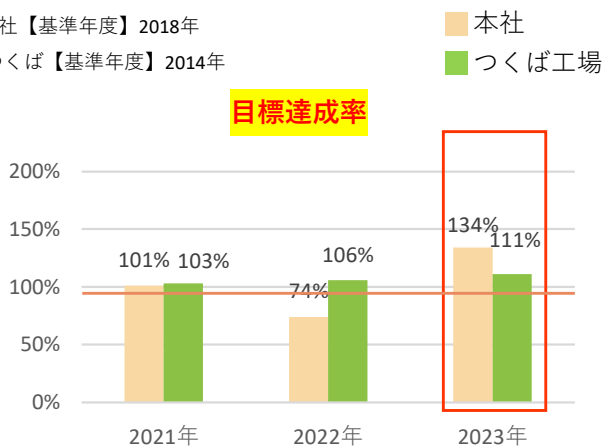
季節要因で使用量が左右される項目。粉塵対策の散水が主に影響力がある。次年度基準値見直し対象としたい。来年度（2024年8月）に予定している集塵装置設置後の散水量減少効果に期待する。

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	m ³	5,662	5,980	13,549
目標値	m ³	7,503	7,424	7,345
実績-目標	m ³	▲1,841	▲1,444	6,204

【一般廃棄物排出量】

本社【基準年度】2018年

つくば【基準年度】2014年



本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kg	727	983	543
目標値	kg	738	731	731
実績-目標	kg	▲11	252	▲187

本社

評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

前年と比較すると前年は倉庫整理を行った影響で廃棄物が多く排出されたが、今年度は大きな清掃が無かった為目標達成となった。

つくば工場

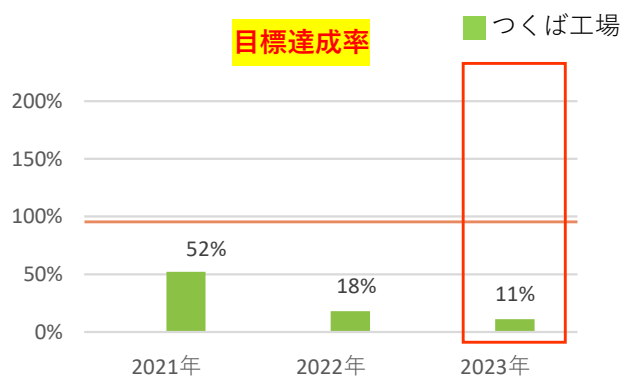
評価：○（達成率95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

前年から引き続き達成することが出来た。分別・原料の意思共有が浸透しており良い結果が続いている。

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kg	287	281	264
目標値	kg	300	297	294
実績-目標	kg	▲13	▲16	▲30

【産業廃棄物排出量】



つくば工場

評価：×（89%以下）

【活動内容と次年度の取組】

精選チップラインの選別除去品の排出量が定常的に一年通して多かった。

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	kg	9,270	26,110	35,520
実績値	kg/t	0.221	0.647	0.963
目標値	kg/t	0.116	0.116	0.116
実績-目標	kg/t	0.105	0.531	0.847

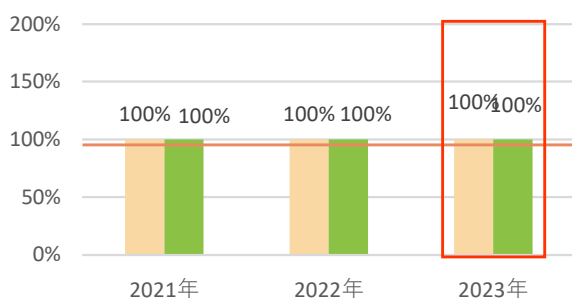
kg-/t：入荷量の原単位

【無事故無違反】

本社【基準年度】2022年
つくば【基準年度】2022年

■ 本社
■ つくば工場

目標達成率



本社

評価：○（95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

無事に無事故無違反を達成することが出来た。次年度も安全に取り組む。

つくば工場

評価：○（95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

無事に無事故無違反を達成することが出来た。次年度も安全に取り組む。

本社				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	件	0	0	0
目標値	件	0	0	0
実績-目標	件	0	0	0

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	件	0	0	0
目標値	件	0	0	0
実績-目標	件	0	0	0

【3S活動】

つくば【基準年度】2022年
※2022年の8月から開始。2か月に一度活動報告を行う。

つくば工場

評価：○（95%以上）

【活動内容と次年度の取組】

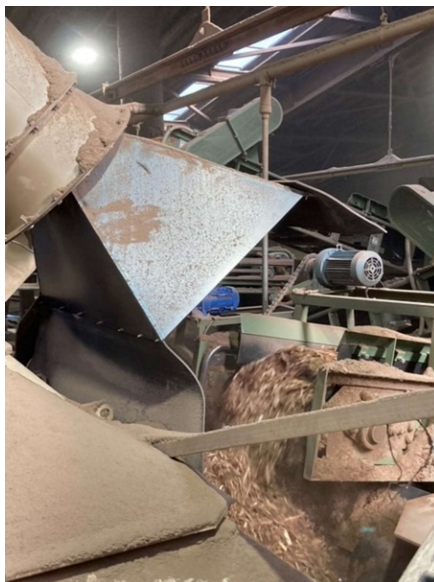
夕会に2か月に1回活動報告を行うことができた。
※別3S活動報告参照

つくば工場				
	単位	2021年	2022年	2023年
実績値	回数	3	6	6
目標値	回数	3	6	6
実績-目標	回数	3	6	6

【2023年度つくば工場3S活動実績】

ダスト対策のための措置

①破砕機側のパル（つまらないように加工）



②サイクロン落ち口の加工



活動内容

- ・ダスト飛散防止、木くずのつまりを無くすために落ちる口に加工をし対策を取った。

【環境配慮】



本社

評価：○

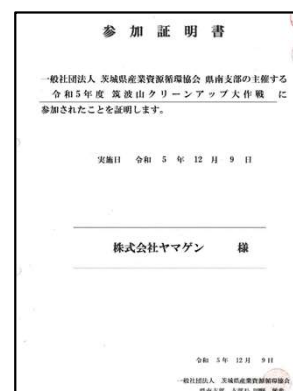
組合等の清掃活動が行われず近隣企業と連携した活動は出来なかったが、自主的に当社単独で事務所周辺のゴミ拾い・清掃活動を行った。



つくば工場

評価：○

工場敷地内外の清掃を常日頃から美化意識を持って取り組めた。産業資源循環協会の清掃活動や筑波山クリーンアップ大作戦等、地域の清掃活動に積極的に参加することができた。



- ◆本社とは、本社の他に古座山林部を含みます。
- ◆本社とつくば工場では事業内容が異なる為、環境目標をそれぞれに設定し評価及び活動報告をしています。
- ◆化学物質はつくば工場のみ使用しています。
- ◆次の化石燃料は消費量が少ない為、本レポートに含めておりません。
 - 1.灯油使用量 2.LPG使用量

2023年度の取組内容	本社	つくば工場
【二酸化炭素排出量の削減】		
空調は適温化（冷房28℃、暖房20℃）にしている。	○	○
照明の適正化、スイッチの適正管理を行っている。	○	○
夜間、休日は可能な範囲で主電源をオフにしている。	○	○
【環境負荷の低減】		
ハイブリット車や低燃費車等の低公害車への切り換えに取り組んでいる。	○	○
アイドリングストップ等運転方法の配慮を行っている。	○	○
アドブルーを使用しディーゼルエンジンの大気汚染を低減する。	-	○
【節水、水の効率的利用】		
漏水を定期的に点検している。	○	○
蛇口に節水こまを設置している。	○	○
【廃棄物の排出抑制、リサイクル】		
両面印刷、両面コピーを利用している。	○	○
印刷済み用紙の裏面を利用している。	○	○
電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組んでいる。	○	○
紙、プラスチック、ガラスビン等について、ごみの分別をしている。	○	○
【環境教育】		
従業員に環境教育を行っている。	○	○

評価（○ 実行している △ 実行はしているが更なる努力が必要 × 実行していない）

- ・ 本社とつくば工場では事業内容が異なる為、分けて取組内容と評価をしています。
- ・ 本社とは、本社の他に大阪営業部及び古座山林部が含まれています

主な環境負荷に関して2024年～2026年（3ヶ年）までの目標値を下表のとおり設定します。

<本社（古座山林部を含む）>

		2024年	2025年	2026年
		削減方法		
◆電力消費量の削減	kg-co2（削減率）	8,456（1%）	8,370（2%）	8,285（3%）
【排出係数】0.450（古座山林部は0.340） 【基準年度】2023年 【基準値】8,541kg-co2		クールビス対応 寿司、焼肉、ステーキ、カレー 不要電源のoff ラーメン、パスタ、蕎麦 空調設備の定期点検		
◆ガソリン使用量の削減	kg-co2（削減率）	8,791（1%）	8,703（2%）	8,614（3%）
【排出係数】2.32166 【基準年度】2023年 【基準値】8,880kg-co2		公共交通機関の利用 ハイブリット車の導入 カーエアコンの適正利用		
◆軽油使用量の削減	kg-co2（削減率）	1,592（1%）	1,576（2%）	1,560（3%）
【排出係数】2.62434 【基準年度】2023年 【基準値】1,608kg-co2		エコモード走行 カーエアコンの適正利用 定期メンテナンス		
◆無事故無違反	回	0回	0回	0回
【基準年度】2023年		安全運転（本社、古座） 山の作業は一人で行わない（古座）		
◆水使用量の削減	m ³ （削減率）	585（1%）	580（2%）	573（3%）
【基準年度】2023年 【基準値】591m ³		水道メーターの確認 雨水利用 蛇口閉め忘れ確認		
◆一般廃棄物の削減	kg（削減率）	597（1%）	591（2%）	585（3%）
【基準年度】2023年 【基準値】603m ³		コピー前プレビュー確認 電子申告システムの活用 会議ペーパーレス化 梱包材の再利用		
◆社会貢献		地区、組合等の団体が主催する環境関連活動への積極的な参加		

- ・本社とつくば工場では事業内容が異なる為、分けて環境目標、環境活動計画を策定しています。
- ・本社とは、本社の他に古座山林部が含まれています。
- ・本社、古座山林部での化学物質の使用実績はありません。
- ・LPG、灯油につきましては消費量が少ないため、当項目の対象外としております。

主な環境負荷に関して2024年～2026年（３ヶ年）までの目標値を下表のとおり設定します。

＜つくば工場＞

		2024年	2025年	2026年
		削減方法		
◆電力消費量の削減	kg-co2/t（削減率）	11.874（1%）	11.754（2%）	11.634（3%）
【排出係数】0.491（16年より変更） 【基準年度】2023年 【基準値】11.994kg-co2/t ※基準値：処理量の原単位表記		工場ラインの不要設備撤去 機械清掃 不要な照明の消灯又は取り外し		
◆ガソリン使用量の削減	kg-co2/t（削減率）	0.066（1%）	0.066（2%）	0.065（3%）
【排出係数】2.32166 【基準年度】2023年 【基準値】0.067kg-co2/t ※基準値：処理量の原単位表記		営業ルートの効率化 ハイブリット車の導入 公共の交通機関の利用		
◆軽油使用量の削減	kg-co2/t（削減率）	7.420（1%）	7.345（2%）	7.270（3%）
【排出係数】2.62434 【基準年度】2023年 【基準値】7.495kg-co2/t ※基準値：入荷量の原単位表記		重機の省エネ運転講習 重機の定期点検 重機の小型化		
◆無事故無違反	回	0回	0回	0回
【基準年度】2023年		安全運転 工場安全対策		
◆水使用量の削減	m ³ （削減率）	13,414（1%）	13,414（2%）	13,278（3%）
【基準年度】2023年 【基準値】13,549m ³		節水呼びかけ 食器等のまとめ洗い 節水用品の設置		
◆一般廃棄物の削減	kg（削減率）	261.3（1%）	258.7（2%）	256.0（3%）
【基準年度】2023年 【基準値】264.0kg		分別ボックスの設置 古紙使用の撤去 古紙リサイクル化		
◆産業廃棄物最終処分の削減	kg/t（削減率）	0.953（1%）	0.943（2%）	0.934（3%）
【基準年度】2023年 【基準値】0.963kg/t ※基準値：入荷量の原単位表記		受け入れ困難物の指導と持ち帰りの徹底		
◆3S活動	回	6回	6回	6回
【基準年度】2023年		2か月に一度活動報告を行う		
◆社会貢献		敷地内外の清掃 団地、協会等が主催する環境活動への積極的な参加		

- ・ 本社とつくば工場では事業内容が異なる為、分けて環境目標、環境活動計画を策定しています。
- ・ LPG、灯油につきましてはコロナ終息後活動が増え消費量が増加しているため、当項目の対象外としております。

当該期間において違反並びに訴訟等はありません。

廃棄物処理法	☐ 一般廃棄物の処理業許可 ☐ 産業廃棄物の処理業許可 ☐ 排出業者との委託契約書の締結 ☐ 産業廃棄物の収集運搬業許可 ☐ 一般廃棄物の収集運搬業許可 ☐ 産業廃棄物管理票（マニフェスト票）の発行及び保存 ☐ 破碎・リサイクル施設技術管理の有資格者 ☐ 廃棄物の減量、その他適正な処理（分別処理等）
騒音規制法	☐ 県条例に定める基準値の遵守
振動規制法	☐ 県条例に定める基準値の遵守
浄化槽法	☐ 一回／年の保守点検及び清掃 ☐ 一回／年の指定検査機関による水質に関する検査
道路交通法	☐ 無免許運転の禁止、アルコールチェック ☐ 酒気帯び運転、過労運転等の禁止 ☐ 危険防止の措置 ☐ 安全運転の義務
消防法	☐ 防火管理責任者の選任 ☐ 消火設備（消火器）の設置 ☐ 火災報知機の設置 ☐ 軽油地下タンク管理者の選定、点検
森林法	☐ 森林の所有者届出制度
高圧ガス及び一般高圧ガス保安規則	☐ 充てん容器等バルブの静かな開閉 ☐ 充てん容器等の転落、転倒による衝撃の防止
火災予防条例 （つくば市）	☐ みだりに火気を使用しない ☐ 整理清掃及び不要物の放置厳禁 ☐ 当該危険物対応の容器を使用
グリーン購入法	☐ 物品購入等に際し、できる限り環境物品等を選択
フロン排出抑制法	☐ 機器の簡易点検（一回／三ヶ月） ☐ 廃棄時の委託確認書の発行保管、引き取り証明書の入手保管
自動車排出ガス規制法	☐ 大気汚染の防止を図り、国民の健康の保護と生活環境を保全する
家電リサイクル法	☐ 対象製品について適切な排出を行う
小型家電リサイクル法	☐ 対象製品について適切な排出を行う
自動車リサイクル法	☐ 自治体に登録された引取業者への廃車の引渡しを行う。
その他	☐ 過去三年間における近隣事業者及び住民、関係機関からの指摘、訴訟

- ・水質汚濁防止法、下水道法、騒音・振動規制法の法令等で定める「特定施設」※1に該当しません。
- ・省エネ法の法令で定める「特定事業所」に該当しません。

※1 水質汚濁防止法、下水道法：水質汚濁防止法施工令第1条、別表第一

騒音・振動規制法：茨城県生活環境の保全等に関する条例に規定する特定施設

※2 省エネ法：エネルギーの合理化等に関する法律第7条第1項

1、環境経営方針

環境方針で示す環境保全への活動指針では、今年度においても活動指針を適切に遂行し環境負荷低減に努め、社員一丸となり環境活動の取り組みを実施することができました。今年度は新型コロナウイルス症が感染症法5類に移行したことで、私達の行動制限がなくなるなど、3年余り続いた国のコロナ対策は大きな節目を迎えましたが、社員の環境活動は変わることなく前向きに取り組む姿勢が確認できました。活動報告は適時に受け、達成状況の管理も適正に行われています。事業活動及び環境活動に制限が及ばぬよう今後も衛生管理を徹底して参ります。2024年度の実施体制については変更なく進めるようにします。

2、環境経営計画の取組結果

電力使用量は（本社100%、つくば99%）という両拠点とも達成することが出来ました。つくば工場に関してはガソリン使用量が124%と前年からかなり改善することが出来ました。新しい取組の効果が出てきていると認識しております。いくつかの項目に関しては、現在の活動に合った目標値になっていない項目がありますので2023年度を基準に目標設定を行います。次年度も引き続き安全に注意して活動して参ります。

3、環境経営

当社の木材リサイクル事業においては、収益の柱である廃材受入量は前期比94%となり、処理料収入は同92%となりました。また、チップの販売量は新たに取り組んだ精選チップの受入れで前期比105%でしたが、集材が減少した結果、売上は大幅減となりました。以上の結果、当期の業績は売上高7億3千万円（前期比93%・52百万円減）、売上総利益6億26百万円（同95%・35百万円減）、販管費は5億4百万円（同104%・17百万円増）、営業利益は1億21百万円（同70%・52百万円減）となりました。当社では川上では森林の適正な管理による二酸化炭素の吸収量を見える化し、川中ではパーティクルボード原料供給による炭素の長期固定化をはかり、川下ではリサイクル事業を推進することで、地球温暖化対策に資する経営を推進し、SDGsに貢献する会社を目指します。

次回見直し：2025年4月30日

株式会社ヤマゲン

代表取締役 山本 拓

